

学校自慢

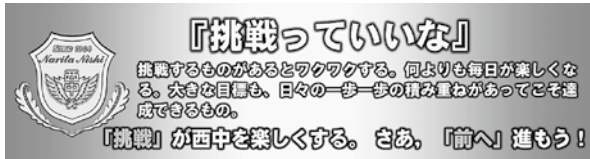
教育DXを進め、 新たな学びの場づくりをめざす

成田市立西中学校校長 藤崎 修治

ふじさき しゅうじ
藤崎 修治



1 『前へ』



西中学校の教育目標は「挑戦」そして「前へ」である。よりよい学校にしていくためには、足りない部分は何か、子供たちは何を求めているのか、子供たちの思いに本当の意味で寄り添うことができているのか、謙虚な気持ちで学校の現状に向き合うことが必要である。明らかになった課題に対して真摯に取り組み、誰一人取り残すことなく前進し続ける学校でありたいと考えている。その思いを表した教育目標が「前へ」である。前へ進み続けるために、私たちは日々挑戦する姿勢を大切にしている。「挑戦」が西中を楽しくする。このポリシーをもとに前進し続ける学校、それが私たちの西中学校である。

2 全力で生徒に寄り添うためのしなやかさと前進力

本校の自慢は、教職員・生徒が持っている立ち止まらずに常に前へ進み続ける「しなやかさ」と「前進力」である。その力を最も注いでいるのは、新たな学びの場の創造を目指したICT活用から一歩進めた校内のDX推進である。「ICT活用の日常化」「生徒主体の活用」「効果の見える化」の3本の柱を設定してDXに取り組んでいる。学習活動はもちろんのこと、家庭学習でも、生徒の学校生活全般にわたってのDX化を推進している。

(1) 「ICT活用の日常化」

目指す学校像にも掲げている「誰一人取り残さない」ために生徒指導部を中心に取り組

んでいるものが、「ICT機器を活用したSOSの出し方教育の充実」である。生徒が「苦しい」「辛い」と感じた時に、すぐにSOSを出せる環境づくりをコンセプトにタブレットを活用した相談環境を構築した。平日はもちろん、長期休業中にも生徒のSOSを確認することができ、早期に対応することができるようになった。生徒の悩みが可視化されたことで、日常生活の中での教師との対話も増え、学校生活アンケートからも生徒の「学校での安心感」の向上に繋がっていると感じている。

(2) 「生徒主体の活用」

生徒会組織を改編し、今年度よりICT委員会を設置し、学校生活の様々な場面で生徒主体の情報発信を行っている。各行事では動画を撮影し、YouTube配信を行っている。活動を通して、互いの具体的な指示の伝え方や画面の裏に隠れている、保護者の気持ちを考える姿が生徒に見られるようになっている。



3 おわりに

どんな場面でも「前へ」進むことができるのは、職員のポジティブな人間関係が基盤になっている。前例や常識にもとらわれずに自分たちの進むべき道を考え出すこと、そして楽しむこと、それが少しずつでも実現できているのが本当にありがたいことである。これからは私たちは挑戦を楽しみながら前へ進んでいきたいと思う。